

トラック輸送業界の構造的経営課題の改善と提言

1. 調査・研究事業の背景・目的

本調査は、県協会の「診断指導歴史研究会」を母体とするプロジェクトチームにより、昨年夏より進めてきたものです。

我々の生活を支える基幹インフラでありながら、厳しい経営環境にあるトラック輸送業界の「構造的課題」を浮き彫りにし、その改善の道筋を立てることを目的としております。

報告会では、調査から得られた最新の知見と、業界の前向きな動向や展望を、ご来場の皆様と共有させていただきました。

2. 実施内容

(1) 研究会を越えたチームメンバーを編成

本プロジェクトチームは、当研究会のみならず、県協会会員の中から希望者を募り、総勢11名による調査・研究チームを編成しました。

集まったメンバーは、必ずしもトラック輸送業界に知見がある方ばかりではありませんでしたが、それが却ってトラック輸送業界のことを深く考え、調査するきっかけになったように思われます。

(2) JADMA (日本通信販売協会)へのヒアリング調査

チーム発足当初、通信販売業界による「送料無料」という表示形式が、消費者に運賃を見えなくさせてしまっており、それが業界の適正な価格転嫁を阻害する一因になっているのではないかという声が上がりました。これは業界内でも既に論争があり、「景品表示法の観点から、必ずしも違法性があるとは言えない」という見解が消費者庁により出されたことで、トラック輸送業界からの反発も起きたようです。

そこで、実際のところ業界では何が起きているのかを調査するため、JADMAへのヒアリング調査を打診しました。すると、思いもよらない回答が返ってきました。

(3) トラック輸送業界の前向きな取り組み

JADMAによると、「消費者庁の決定以降、現在は通販業界とトラック輸送業界が一丸となり、定期的に意見交換を行いながら、業界の構造的課題の解決やサプライチェーンの維持に向けて前向きに協力し合っている。むしろ、そうした業界の動きに水を差す事業者が一定数いることが現在の悩みである」と言います。

当初は、失礼ながら少なからず「荷主 VS 荷受け事業者」という対立構造を抱いていたこともあり、JADMAによるこの回答は、私たちにとって暗闇に一筋の光を見出すような思いでした。

3. 報告会の開催

報告書完成後、調査・研究結果の報告会を開催しました。報告会は二部構成となっており、第一部では、本編の報告書から「トラック輸送業界の構造的経営課題の改善と提言」と題し、リーダーの横山より報告を行いました。

第二部では、「付帯報告書」と題した、これからの中小企業診断士の在り方や中小企業に求められる役割についての見解をリーダーの横山よりお話ししました。

- 名 称: トラック輸送業界の構造的経営課題の改善と提言
- 日 時: 2026年2月22日(日) 14:00~16:00
- 会 場: 埼玉県中小企業診断協会 3階会議室
- 内 容:

- ① 開会あいさつ
埼玉県中小企業診断協会 診断指導歴史研究会
代表 吉田幸夫
- ② 報告その1:『トラック輸送業界の構造的経営課題の改善と提言』
発表: トラック輸送業界研究チーム 代表 横山英樹
- ③ 報告その2:『これからの中小企業及び中小企業のあり方に関する考察』
発表: 横山英樹 (診断指導歴史研究会)
- ④ 質疑応答

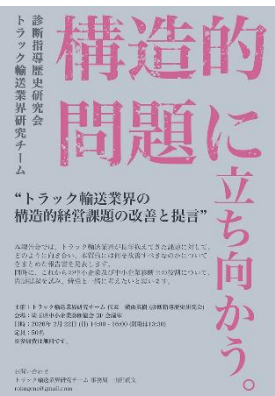


報告会の様子

4. まとめ

本調査を通じて、業界の構造改善には、荷主との力関係を是正する『アナログな取り組み』と、DXやプラットフォーム活用による『デジタルな変革』。この両輪を回していくことが不可欠であることが分かりました。

私たち中小企業診断士に求められる企業支援の在り方もまた、そうではないかと思えます。



報告会のチラシ



横山英樹